Media Information

2022年7月24日

2022年 ラウンド4 SUGO大会 レース12

スタートからトップを守り続けた小山美姫選手が今季6勝目を記録

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2022のラウンド4レース12決勝がスポーツランドSUGOで行われ、8号車をドライブする小山美姫選手(TGR-DC F111/3)がポール・トゥ・ウィンで今季6勝目を飾りました。

今週末の3レース目、レース12は、前日の公式予選1で記録されたセカンドベストタイム順となり、小山選手がポールポジション。レース11を制してFRJ初優勝を飾った45号車の大木一輝選手(PONOS Racing)が2番手、レース10で今季初優勝を挙げた97号車を駆る小川颯太選手(Bionic Jack Racing Scholarship FRJ)が3番手から22周のレースに臨みました。

スタートでは小山選手に大木選手と小川選手が並びかけ、3台が並んで1コーナーに進入しますが、小山選手がトップを死守し、小川選手が2番手に浮上。この2台は序盤から1分21秒台のペースで周回を重ね、3番手以下を引き離していきました。

マスタークラスでは、Race11に引き続き好スタートを決めた7号車の畑享志選手(A-NeKT F111/3)がクラストップに浮上。その後方では14号車、田中優暉選手(アスクレイ☆イーグルスポーツ)と、11号車のHIROBON選手(Rn-sportsF111/3)がバトルを繰り広げましたが、田中選手は5周目の1コーナーでスピンを喫し、大きくポジションを落としてしまいました。

また、最後尾の9番グリッドからスタートした3号車をドライブする大草りき選手(Sutekina Racing)が快進撃を披露。1周目でポジションを2つ上げると、その後も前を走るライバルを次々と抜いていき、6周目には大木選手を抜いて3番手に浮上。10周目にはファステストラップを記録し、トップ争いをする2台を追いかける展開に。

レース後半に入ると、大木選手と畑選手による総合4番手争いが白熱。数周にわたって接近戦が繰り広げられましたが、12周目の1コーナーで畑選手がついに先行します。しかし、直後の2コーナーでスピンを喫してしまい、畑選手は7番手まで後退。これによりHIROBON選手がマスタークラスのトップに躍り出ました。

総合のトップ争いは、小山選手と小川選手が2秒前後の間隔を維持し、お互いにひとつのミスも許されない緊迫した展開となりましたが、小山選手が最後まで逃げ切りフィニッシュ。今シーズン6勝目を挙げました。2位には小川選手、3位には大草選手が続きました。

マスタークラスでは、総合5位に入ったHIROBON選手がレース10に続いて、今週末2勝目を記録。2位に畑選手、3位に34号車の三浦勝選手(F111/3)が入りました。

レース12 優勝　小山美姫選手コメント

「今週末を振り返ると、すごく運が良かったなと思います。1レース目はスタートで抜かれてしまった大木選手がペナルティになって順位がひとつ上がりましたし、2レース目も小川選手がストップして順位が上がって……本当に運に助けられました。3レース目は、もてぎ大会のような独走の展開にはできませんでしたが、私も含め、みんなもギリギリまで攻めて走っていたと思うので、その中で勝てたのは良かったです。今週は個人的には上手くいかなかった部分もありながら、最後ちゃんと勝って終えることができて、本当に支えてくれた皆さんに感謝です」

レース12 マスタークラス 優勝　HIROBON選手コメント

「ずっと誰かと接近戦でバトルをしている感じでしたが、そこまで使っていないタイヤを残していたので、それが大きく効いたかなと思います。それでも終盤はタイヤの摩耗が気になり、バトルをしないでおこうと思っていたんですけど、ちょうど大木選手を抜けるタイミングがあり、そこで追い抜くことができました。今回もTCRJとのダブルエントリーで、この暑いコンディションで走るのは大変だったのですが、この週末でクラスランキングでライバルに対してポイント差を広げられたと思うので、そこは良かったです」

なお、次回のFRJは9月9日～11日に富士スピードウェイでラウンド5が、FIA世界耐久選手権(WEC)のサポートレースとして開催されます。